時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日ニ休刊セズ其代價
送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	一行ニ付三日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	七錢	六錢
自十一行至廿行	八錢	六錢	五錢
廿一行以上	七錢	五錢	四錢
三十一行以上	六錢	四錢	三錢
	八錢	五錢	三錢
	五錢	三錢	二錢
	五錢八厘	五錢九厘	五錢
	五錢	五錢	五錢
	五錢	五錢	五錢

時事新報

左の一文は神田生の寄書にして其時事新報を評する溢美敢て當らずと雖ども人事活動の極と論する頗る時勢に中るものあるが如し依て其儘記して本日の社說に代ふ

時事新報に謝す　時事新報記者誌

在昔戚る書中の士に茶道を好む者あり江戸勤番に東海道を通行しながら毎夕旅宿に着けば持參の釜を荷物の中より取出して座を拂ひ、花をいけ、軸物と掛けなどして茶の湯さんまいに忙はしくするに予同伴の人は終日事風はてたる處に之を見るも五月蠅く時としては附合に茶の相手をさせられるに困りて如何ぞ好きの茶の湯なりとて道中丈けは見合せて然る可しと忠告しければ茶人は笑て道中も人間一生涯の中の日あり之が爲めぞ我樂しむ道を廢するは死しさるに異ならず君等い可惜人生を空ふする人なりとの答に同伴人も返へす言葉なりきと云ふに就て思出したるは今年一月一日の時事新報に其發行三百六十五日打通しに年首歳末或日日曜の休刊を廢したるは他の諸新聞紙に比して一年凡ろ五六十日の事を多くして即ち夫れ丈けの壽命を長くしさるに異ならずとある是は如何にも近來の新說なりして吾〳〵讀者の身となりては等閑に附す可らざるものあり世の人事次第に繁多に赴くに從て其錯雜も亦甚だしく三年見ずして面目を改る抔はむかし〳〵の談にて今の世相は三日の中に變化し一日を油斷して自家の利害に大影響を及ぼすの事例は毎に珍らしからず日曜日として惰眠食せざる可らず、起居眠食常の如くなれば一切の人事も亦休息するゑ非ず左れば日曜も亦是れ人間一生涯の中の一日なれば其日と空ふして耳目を閉し聞見の道を塞ぐい取りも直さず六日の生に一日の死と添ふるもれにして文明の活世界に在るまじき事なり一日新聞紙を見ざるが爲めに商賈の機を誤まりて失ふ可らざるを失ひ、利す可き利を利せざるものあり、故郷の家の顚覆したるを知らず田園に天災ありしを知らざるものあるを、汽船汽車に乘後るゝものあり、殊に政治上の出來事にして其機變の迅速なる實驗二十六日保安條例の發布引續いて退去人の處分の如き其時に當りて今日は日曜なり昨今は歳末なり又年首なりとて新聞紙を見ざる者もならば假令へ政治家ならざる尋常一樣の商人にても兼て博奕の日那は昨日既に三崎外に去りたり、否ゑ遠く故郷に歸りたりと聞いて始めて驚くの奇談もある可し吾々い兼て時事新報の讀者なれども實驗より本年の始めに掛けて特に其無休刊の効能を感ずること淺からず殊に差するに活世界の活動は決して今回に限らず皇工商事に又政治上に今後いよ〳〵繁多にして其發るや所謂疾雷耳を掩ふに暇ならざるの變動あるを期す可ふず此時に當りて吾〳〵の耳目を托する所のものは唯新聞紙あるのみにして殊に其聞見の利を利して一日の間斷なきものい日本國中唯一の時事新報のみ、吾〳〵は由て以て茶客の笑と免かれんとする者あれば敢て一言と呈して記者の勞を謝せるものなり

東京　神田生

官報

○内務省訓令第一號

北海道廳　府縣沖繩縣ヲ除ク

官國幣社造修不用ノ古材木屑等二十年度以降處分ニ係ル分ハ現物並代金トモ其社〳〵下渡スベシ

明治二十一年一月十日　内務大臣伯爵山縣有朋

◎猩紅熱患者消毒　昨年十二月中官報に登載せし猩紅熱患者は今般就も全治せしに由り該患者に供用せし滿國及衣類等は燒却若くは石炭酸水に浸潤し壁或い床板寢臺其他室内諸具の類い昇汞水若くは石炭酸水を以て拭淨し尚ほ室内を密閉し亞硫酸瓦斯を以て薰蒸する等夫々相當の消毒を施行せゞ(神奈川縣)

○牛畜減耗に係る注意　近來肉食益々開け爲ゑ牛畜の屠場に上るもの年々十餘萬頭を以て算ふるに至れり而して其壽殖力い曾に屠殺せる所の頭數と補ふに足らざるのみならず年一年より減少を致せり蓋し本邦の牛畜い專業とおして之と壽殖する者甚少く各農家に於ていい如何なる規則によりて處置しさるものなるやを以て伺書を差出だせしにも拘はらず遂に飯村氏の當撰と定まりまかば郡民各地に集會して伺書を縣廳ゑ差出ず若し縣廳にて相當の處置をなさゝるに於ては之を法廷に訴へ曲直と明かにせんとて目下頻に奔走中のよし

○出版月評第五號　出版月評は號を逐ふて愈々面白く讀者をして花あり實あるの思あらしむるに至りたるは文學世界の爲め祝賀に堪ふべ次事にして今度發兌したる第五號の如次は學海居士起草の兩編等何とあく光澤ゆるを免ゆかれども本號に記する詳評は大抵小說類れものゝ〳〵にして眞面目のもの少なく次は日本の著述未だ小說に制せらるゝが故ならん歟又毎度同紙上に出版書目と登錄するは讀者の爲めに至極便利ゑは相違なけれども其量類方に就て試聊か感服せざる所あり例へば政治の部に伺武論あゑ是は多少政治にも緣あるべしと雖も寧ろ雜の部に入るゝに若かざるべし而して雜の部にある政海之新潮あゑところ寧ろ政治部に繰込んで然るべきに非ずや、傳記の部に建國偉業を揭げて何故に經世偉勳を小說の部に置きさるや、リードル獨案内乃至直譯の類を教育附歌科書の部に入れたるい如何又農工商の區別紛らはしき所あり一寸通覽したる許りにても此類のと並び多し文學世界の銘面と以て任する月評ゑ苟も斯る混雜ありては商賈相似合はしかゝずと云れて答辨あるべし左れども結尾の社告を見れば是い内務省總務局圖書課の許可を得て茲ゑ掲載するものなりとのゑなれば或は同課の彙類に係るものにあて月評れ與うる所に非ざるやも測り難し遺憾われ一旦月評に登錄する上は幾分か其責に當らさるい勿論なれば何れにもせよ我輩い此邊に向て今少しく注意を乞はんと欲するものあり

○戸長役場の移轉　横濱元町外六箇町戸長役場は去年同町出火に際類燒したれば假りに增德院内に於て事務を取扱ひ居たるが何分手狹にて不都合の點多きより今度元町三丁目百三十二番地へ移轉したりと云ふ

○米磨き器械　横濱太田村千七百四十二番地の桶職石井新太郎と云ふい多年の工夫を以て米磨き器械を發明せし由此米

雜報

○大坂株式及米穀相場の景況　去る四日は大坂株式取引所及び堂島米商會所の初市にて昨年納相場以後既ゑ一週間立合と休み居たるとゆゑ賣買雙方の取組に關係ある者い勿論其他とも午前十時の開場前繁來したるは平常よりも一層の多人數なり扨近頃株式取引所に於て賣買の主眼なる株式は商船株にて去年の納會以前は一寸景氣强く二月限四十圓四五十錢迄買進み居たるに其後金融ゆ必迫金利の益々上騰する勢あると又商船會社頭取の官撰も許されず河原信可氏が副頭取の就任も未ざ決定せざる等の事に源因せしと見え去る四日の初相場は一月限寄附株八圓四十錢に立會ひて七圓七十錢迄押込ま二月限株八圓五十錢より追々廿錢迄下放れ又新浦三月限い株九圓十錢の一寸ありて遂ゑ八圓七十錢

巡査募集廣告
本縣巡査欠員ニ付試驗ノ上採用ス志願ノ者ハ本月二十日迄ニ本部ヘ願出ヘシ
明治二十一年一月
隅田英次
諸葛小彌太

右今般解雇セリ以後一切關係無之候也
振出小切手
領面七白圓
明治二十一年一月九日附
横濱元町二丁目十四番地
振出人　谷崎久右衛門
受取人